

令和6年度 第2回 生駒市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

日 時	令和6年8月21日（火） 午後1時30分～
場 所	セラビーいこま 3階 研修室
出席委員	清水会長、三木(美)委員、岩本委員、山田委員、城野委員、辻中委員、末松委員、今川委員、嬉野委員、石田委員、溝口委員、吉田田委員
事務局	吉村子育て健康部部長、岡村子育て健康部次長、松田教育部次長 子育て支援総合センター 若狭所長、中田係長 こども政策課 澤辺主幹、土井田係員、竹田係員 幼保こども園課 大畑課長、牧野指導主事、長崎指導主事 こども園準備室 小林室長 児童総務課 武元課長 健康課 渋谷課長 男女共同参画プラザ 福山所長 教育指導課 花山課長 生涯学習課 井川課長
会議の公開	公開
傍聴者	1名

1. 開会

2. 委員紹介

（臨時委員の紹介、挨拶）

3. 案件

- (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の令和5年度事業実績報告及び第3期計画の計画値について
- (2) 生駒市こども計画(※仮称)について
- (3) その他

- (1) 第2期子ども・子育て支援事業計画の令和5年度事業実績報告及び第3期計画の計画値について

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

事務局の説明について、意見や質問はあるか。

委員

【事業3】妊婦健康診査について、健康診査利用延人数を妊娠届出者数で割ると、令和2年度から5年度までの実績値は12回以上の利用があるが、計画値推計は9～10回程度と低い。

事務局

妊娠届出者数、健康診査利用延人数は年度の途中の転出入者が考慮されていない。計画値については再度見直したい。

会長

ほかに質問はないか。

それでは、第2期の進行管理結果をまとめて次回答申とする。軽微な修正等があれば、事務局と私で調整させていただくことで一任していただいてよいか。

(異議なし)

会長

第3期の計画内容については、こちらをベースに答申に向けて事務局で調整いただき、次の会議でパブリックコメント案として審議したい。

(2) 生駒市こども計画(※仮称)について

① 生駒市こども計画にかかる現状と課題(案)(1) 基本情報

(事務局より説明)

(委員からの意見・質問)

委員

他府県市でも問題になっているが、市内でも都市開発が進んでいる地域とそうでない地域があり、地域によるサービスの受けやすさの差を感じることがある。保育園の整備等がニーズに追いつくか懸念がある。

事務局

生駒市では大型開発は一定落ち着いている。ただ、生駒駅周辺は利便性の良さから保育ニーズは高い。そういったことから、0～2歳児までを対象とした小規模保育所を誘致してきたが、3歳児以降の行き場が課題になっている。今後は、こどもの減少、世帯の就労状況を踏まえ、保育所の整備について検討したい。また、幼稚園についてもあわせて考えていく必要がある。

委員

生駒市への転入が増えている理由が気になる。転入時にアンケートを取ることはできるだろうか。転入理由が分かれば、今後の対策の手立てになるのではないか。

保育ニーズに関しては、保育士不足が課題となっており、施設はあっても児童の受け入れができない、という問題が生じている。

事務局

転入時アンケートは過去に何度か実施したことがあるが、行政サービスの水準を重視した転入は想定よりも少なく、物件の状況や価格、周辺環境を重視するケースが多いようだ。また、こどもの数が減っているということについては、転入は多いが、市内での出生が減っている状況といえる。

委員

現在、緑が丘や中葉畑2丁目周辺は住宅開発が進んでいる。今後、人口が増えていくので、こどもの数も増えていくと考えられる。計画はそれらを考慮しているか。

事務局

配布資料の児童人口の推移グラフをご覧くださいと、実績値よりも計画値がゆるやかになっており、人口移動率も加味したものとなっている。

② 生駒市こども計画にかかる現状と課題（案）（2）こどもに関する状況

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

ただいま現状と課題のうち（2）こどもに関する状況、（3）若者に関する状況について説明いただいた。

まず（2）こどもに関する状況について、こどもの幸せや権利、居場所など、本市のこどもについて、日頃特に気になっていることや、抜けている視点やほかに課題があれば、忌憚のないご意見をお願いしたい。また、課題解決のために、すでに実践されている取組や、今後本市のこどもにはこういう取組が必要といった意見やアイデアもお願いしたい。

委員

昔の空き地のように、水があり、土があり、ドラム缶があり、小屋があり、そこには遊ぶうといえは一緒に遊んでくれる、近所のおっちゃんのような関係性の大人がいる、そんな場所があれば良いと思っている。学童はこどもたちのコミュニティが生まれやすく、こどもたちにとってとても良い居場所だと思うが、高学年になると、学童は「行かないといけない」という認識が生まれてくるようである。夏休みは朝早くから学童に向かい、「ぼくたちには夏休みはない」という声も聞く。中学生になっても土遊び、ボール遊びは大好きなので、地域の中に、自由に出入りができて、こどもと良い距離感をとれる大人がいるような場所があると良い。

委員

こどもの幸せを皆で議論できるのは良いことであるが、子育てをしていない、あるいはこどもの教育に関わらない大人の意識が変わらない限り、こどもにとって幸せな地域にはならないだろう。こどもは常に順位付けされているが、これまでのような、偏差値が高ければ将来幸せになるというような認識は問題がある。高度経済成長期に育った世代、国益を上げるために働いてきた世代と、今のこどもが置かれた状況は全く異なる。その違いを地域の人理解しない限り、こどもは苦しいままである。自由に遊べる居場所があれば良いが、こど

もは遊ばず勉強すべきといった偏差値偏重の大人が地域にいては、こどもは遊ぶことも憚られ、居場所からも遠ざかることになる。まずは、地域の大人が、こどもの将来の豊かさや幸せとつながった教育や子育てについて気軽に対話できるような空気感をデザインすることが重要である。私自身、このような場で話すことは大変緊張する。大人が発言しやすいような、やわらかい雰囲気では話せる場があれば良い。

委員

こども家庭庁の発足以来、謳い文句は「こどもまんなか」で、こども中心の社会を前面に出している。しかし、こども中心の社会の実現のためには、こどもの周りに理性的な良識を持った大人の存在が不可欠であるにも関わらず、その点が二の次になっていると感じる。

精神的幸福度が世界ランク 37 位という低さをどう解釈すべきか。学校教育における権利教育、権利への理解が不十分なのではないだろうか。たとえば、当施設（児童養護施設）の職員は権利意識に係る教育を継続的に受けている。社会の変化に伴い、児童養護施設も変わろうとしている。施設の場合、こどもアドボケイトの方が訪問されて、様々な話をする機会がある。現実的には難しいと思うが、公的な場で権利教育を受けるよりも、一般家庭やチロル堂、学童、アドボケイトなどから学ぶことができると良い。そのためにも理性的な良識を持った大人をあらゆる角度から育成していく必要がある。こどもの問題は、こどもだけに目を向けていては解決できないと思う。

委員

私は生駒市の地域共生サミット推進委員を担当しており、去年豊田市で行われたサミットに視察に行った。先程、日本のこどもは世界的に見ても幸福度が低いという話があったが、サミットで発表された、こどもを対象とした未来への期待・希望に関するアンケート調査の結果も同様に世界に比べて期待・希望度が低かった。ただし、島根県のとある町だけが突出して高かったようで、その理由を現地調査したところ、大人とこどもが対話する時間を多く設けている、ということであった。

今の母親はスマホ片手に育児をし、こどもに話しかけられても「ちょっと待ってね」というだけで目も合わせないし、会話しなくてもいいが増えているという。求めたら応えてもらえるということが、こどもの成長にどれだけ影響するか。こどもたちの生きる意欲や、希望を見出す力は、周りの大人がこどもの希望にどれだけ真摯に対応したかが重要である。私がチロル堂を運営する中で、信頼できる大人がそばにいて、こどもたちは安心してやりたいことができるし、弱い人、強い人、素敵な人、素敵でない人に関わらず、多くの大人に出会うことが、こどもの可能性を広げるのではないかと考えている。

委員

現状と課題ということだが、現状は記載されているが課題は記載されていないのではないかと。こどもにとって何が良い状態かわかっていない中で、部分的に課題が挙げられている印象である。「こどもにとって」というのは、「日本の未来にとって」とイコールなので、日本の未来にとってどのような状態が良いかを議論する必要がある。生駒市のこどもが大人になる 10 年後 20 年後にどのような地域になっていけば「豊か」であるかを議論して、共通認識が得られたら、ではもう少し居場所が必要になるねといった話になるのではないかと。まずはその議論が必要だと思った。

こどもの幸福度について世界ランキングで日本が低いということはずっと言われてきた。北欧の教育が良いと皆が口を揃えて言うが、確かに北欧の教育は素晴らしい。一方、日本の

こどもたちは過度に競争的なシステムを含むストレスの多い教育環境に置かれていると国連から指摘を受けている。しかし、日本の誰にもそのような認識はない。これこそ学校側に求めるのではなく、地域に求めることである。何度も同じ話をするが、地域の大人たちの意識が変わらないと何も変わらないので、大人が学びあう場所が必要である。気軽に集まることができて、気づいたら意識が変わっているというような仕組みが必要だと思う。

委員

こどもの現状については、例えば、性に関する悩みなど、数字で読み取れない面も多いと思う。大きな枠組の中で、こどもひとりひとりをどう救うかについては、難しい問題がある。私は小学校長をしているが、当校でも不登校児童は増えている。ただ、フリースクールに任せるということではなく、不登校児童が通いやすい環境を整えることも重要である。教育委員会でモデル校を設定して取組を進めていただいている。

コロナの影響による変化もあり、学校によって様々な課題が生じている。それらを踏まえた現状と課題を整理する必要がある。こどもひとりひとりの救済策については、アクションプランの中で検討する必要があると思う。

委員

フリースクールを運営しているが、こどもたちが変わっていく中で、学校に行っていないから劣等生というわけではないと気づき、こどもたちのことを知りたいと思うようになった大人が増えてきたと感じている。こどもだから、あるいは大人だからに関係なく、目の前のこども、大人を知りたい、お互いを人間として興味を持つ、それが自己肯定感の育みにつながるのではないかと考えている。

副会長

アンケートにチロル堂への賞賛コメントがあり、チロル堂のことが気になっている。

こどもが「今は声をかけないで」と言えることは大事なことである。私たち大人は無意識のうちに「声をかけたら反応しなさい」という圧力をこどもにかけている。多様性といながらも、協調性への圧力が強い。資料2の17ページ、こどものワークショップでの主な意見「学校は聞いてくれる人、わかってくれる人が少ない、先生だと言り返される」は身につまされる。

こどもも大人も独特の圧力を感じている。大人は協調性を強いられて育ったため、多様性をスムーズに受け入れることができない。それを自覚しながら、今のこどもの思いをどう掬い上げていくかを考えることが大事である。それで大人自身も救われると思う。

委員の方々の意見を聞き、場所としての箱と意識がとても大切だと改めて感じた。こういった会議の場では発言しづらいし、アンケートでも、声に出せない声が実は大きいということは前回も共有した。表に出てこない意見も同時に考える必要があると改めて思った。

事務局

本計画には少子化社会対策の内容を含むこともあり、こどもの数を基本情報として掲載しているが、生駒市としては、こどもの数を増やすことよりも、こども一人一人の幸せをどのように向上させるかが大事であると考えている。そのためには周囲の大人が意識を変えることが重要であることが、委員の方々の意見からもよく分かった。計画の中にしっかりと盛り込んでいきたいと考えている。

会長

計画に書き込んでいくことが必要である。例えば、資料2の10ページのこどもの権利の理解促進への課題の中に、「一般市民」を追記するだけで対象が広がると思う。

③ 生駒市こども計画にかかる現状と課題（案）（3）若者に関する状況

（委員からの意見・質問）

会長

続いて、(3) 若者に関する状況についてご議論いただく。ここでは、社会参加や就労、結婚についてまとめられているが、本市の若者の現状について、特に、結婚支援の必要性について、何かご意見あればご発言をお願いしたい。

委員

結婚相手を見つける場所があると良いと思うが、そこに行く勇気も必要である。そうした配慮のある場所があるとありがたい。

委員

結婚、出産に対して、いまの若い人がどう考えているかである。時代は巻き戻しできない。戦前・戦中のような、産めよ、増やせよ、はあり得ないだろう。市として、結婚、出産を積極的に推進する方向か。もちろん出生率を維持、向上することは重要であるのは分かっているが、結婚の価値観も様々である。人口も減少し、結婚を望まない若者が増えていることを受け入れたうえで手立てを考えていく方が現実的ではないか。

委員

事実婚など、新しいパートナーシップの形をとる方も増えており、その形も様々である。社会の変化の中で、この調査の数字をどう受け止めるかである。

息子が間もなく父になるが、母子手帳ならぬ父子手帳をもらったと聞いた。家族のあり方の変化、家庭の中での役割分担により子育てのハードルも下がっていくので、社会のハードルの下げ方も考えることが必要かと思う。

④ 生駒市こども計画にかかる現状と課題（案）（4）子育て世帯に関する状況、（5）地域や社会の状況

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

ただいま、子育て当事者や、こどもを取り巻く地域の現状と課題について説明いただいた。

まず、(4) 子育て世帯に関する状況について、ここでは、案件1の子ども・子育て支援事業計画とも関係するが、子育て当事者側からの視点での内容となる。妊娠から出産、育児と切れ目ない支援や多様な子育てニーズへの対応が求められているところだが、この分野についてご意見を願うする。

委員

私は仕事をしながら保育所を利用し、実家も近いことから恵まれた環境で乳幼児期の子育てができています。今年から上のこどもが小学校に入学したので、学童保育を利用しています。学童を利用することと利用しないこどもが半数程度ということから、異なる環境の保護者との関わりがない。PTAも始まったが、仕事があると参加しづらく、地域に溶け込めていないと感じている。

父親の育休取得については国の方策もあり進んでいるが、父が育休で家にいると母が父とこどもの二人を育てるような状況になるという話をよく聞く。先程、父子手帳の話もあったが、父親にはこどもが生まれる前から子育ては自分事と捉えて欲しい。

委員

37 ページの待機児童数について、これまで長らく待機児童数が多い状態で推移していたが、令和5年度には0になった。その後、今年度に入りまた増加しているようだ。このあたりは今後どうなるのか、ご教示いただきたい。

事務局

令和5年4月に0人になったが、令和6年8月時点で13人の待機児童がいる。その主な要因は、先程も指摘があったが保育士不足である。全国的に保育士不足ではあるが、生駒市の場合は、近隣の大阪市や奈良市への流出も考えられる。手当の支給や、保育士の魅力・やりがいの面でのPRを続け確保を進めていきたい。

委員

当園で見る限り、育休を取得された父は送迎に関しては頑張っている印象がある。母も育休期間中に資格取得されたり、地域の集いの広場に参加したりするなど、親同士の交流を深めているようだ。

保育士不足についての補足だが、配置基準が見直され、今年度から3歳児が保育士1人当たり児童20人(1:20)から15人(1:15)になり、4,5歳児が1:30から1:25となった。そうすると、保育士不足で保育士を増やすことができない場合、4,5歳児では、これまで30人受け入れていたところを25人までしか受け入れられない。1歳児も1:6から1:5になる予定である。1歳児での入園希望家庭は多いが、これまで保育士が2名いると12名受け入れられたが、新しい基準になると10名しか受け入れられない。以上のことから、このままでは待機児童が増えることになる。当市においては、令和7年度の「こども誰でも通園制度」は実施しないと聞き安堵したところだが、他市の取組や課題が気になっている。

会長

保護者の悩みを聞くことはあるか。

委員

フリースクールにおいては、当初は情報不足のため、孤独感や、どうしてうちの子は学校に行けないのか、何が正解か分からないといった悩みを抱えられているが、同じ状況の保護者と話をすることで世界が広がり、解決の糸口がみえてくるようだ。親同士が気軽に話せる環境は大事だと思う。

保育士はどうすれば増えるのか。私もかつては保育士だったが、保育に全力を注ぎたくてもそれが叶わない状況は確かにあった。志を高く持ち保育士になっても挫折するケースもある。そういった現状を打破する手立てはあるか。

委員

最近保育士養成学科の募集を停止する大学、短大が増えている。人口減少もあるが、保育士を目指す人自体が減っている。私は佐保保育園に勤務しているが、同法人の奈良佐保短大も今年の1月に募集停止を発表した。

保育士資格を保有しないが、こどもに関わりたいという方は、年2回になった保育士試験に挑戦していただくか、県の子育て支援員研修を受けていただき、保育補助員として保育所内で勤務いただくことができる。こども園の場合は、保育士と幼稚園教諭の両方の資格が必要だが、保育所は保育士資格のみでよい。保育士資格は一生ものなので、70歳までを対象に求人を出す保育所もある。

働き方改革のために、ICTによる業務効率化や、県からの業務改善コンサルタントの受け入れも進めているところである。

子育てがひと段落して社会に関わりたいという方もいる。当園でも9時から13時半までの時短勤務から始まり、子の成長に合わせ、ほぼ10年がかりでやっと8時半～16時半までフルタイムで働けるようになった方もいる。このように根気よく保育士を育成したいと思っている。いかにして保育分野に興味を持っていただくかという点については、難しい。

委員

私も半世紀前になるが大阪の保育所に勤めていた。現在私は、みっきランドに関わっているのだが、その保育士の方の話を聞くと、私の頃とほとんど悩みが変わっていないことが分かった。多忙のため、書類の作成などは持ち帰りで行っているようだ。そのあたりの環境が改善されない限り、こどもが好きというだけでは続けられない仕事だと思う。報酬面においても改善が必要だろう。

委員

保育士が不足しているということだが、福祉ヘルパーも同様に不足している。待遇面では様々な議論が進んでいると思うが、教員や保育士もこどもの支援は楽しいが、職場の人間関係に悩みがあるという話もよく聞く。組織としてどう正常化させていくかは大事な問題である。また、大人世代と若い人との価値観は全く異なるので、価値観が異なる人と共に働く難しさは実感しているところである。教員や保育士の人材育成について、何か活動は始まっているのか。

事務局

市としては、管理職を対象にハラスメント研修、職員が気持ちよく働ける環境づくりといった研修を実施している。保育士については「不適切保育」という事案も昨今出ているが、保育所や保育そのものを振り返る研修、臨床心理士や児童相談所で働いた経験のある講師を招いた研修など、人権を意識した研修を進めている。

会長

時間の関係もあるので、(5) 地域や社会の状況についてのご意見を願います。

委員

私は子育てボランティアグループの「かるがもの会」に参画している。運営側も高齢化が進み、若い方に参加して欲しいが、仕事を持つ方が増えていることもあり、なかなか難しい。また、「かるがもの会」に参画いただくには、市の子育て支援講座を受けることを条件としているが、講座を受けてもボランティアとして活動する人が少ない。そのあたりを行政の方でうまく誘導いただきたい。

委員

資料によると、園児数が減っているところで、地域との協働の取組であるコミュニティ・スクールがあるということだが、市内の小中学校も全てコミュニティ・スクールがある。当小学校区には市民自治協議会があり、学校運営協議会の委員として、学校のグランドデザインや重点課題について意見をいただいている。あいさつが出来る子を育てるということを目的に、月に一回、市民自治協議会、民生児童委員、自治会、児童会が参画するあいさつ運動を実施している。生駒ではそのような活動を共有する連絡会を教育委員会の中に設けている。そういった地域を巻き込んだ子育ての取組は大事だと思っている。

⑤ 生駒市こども計画にかかる基本理念（案）

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

ただいま説明いただいた基本理念（案）について、事務局から提案があったが、本計画の目的として重要な部分なので、ぜひ委員の皆様からご意見をお願いしたい。

委員

説明文はその通りだと思ったが、理念の「こどもが自分らしく幸せに育ち」という文言が少し引っかかる。果たして、こどもが自分らしく育つことが幸せなのか。たとえば、「こどもが夢に向かって努力し」等であれば大人がそれをサポートするということも考えられる。

委員

こどもが自分らしくあるということは、私は最も大切なことであると思っている。今のこどもは窮屈さ、不安に苛まれている。日常的に関係を持てる大人は、親、学校の先生、塾・習い事の先生に限られている。勉強、スポーツを頑張りなさい、素敵な人になりなさい、豊かな人生を歩みなさい、これらは大人の純粋な希望であるが、こどもからすると、義務のように感じる。自分の本当の願いは何か、どうなりたいのか、どう生きたいのか、自分らしさとはどういうことかは、それに伴走する大人がいることで明確になるのではないかと私はこの理念に共感できた。

委員

この理念には、こどもの主体性や裁量が入っていない。こどもがどうしたいかを言えるような環境、自分で決められるまちであってほしい。その一言でも良いと思っている。

幸せかどうかはこどもが決めることなので、理念に「幸せに育ち」と記載するのはおかしいのではないかと感じた。

会長

ただいまの議論内容をふまえ、事務局で基本理念案を再考いただき、次回会議でお示しいただきたい。

(3) その他
(事務局より連絡)

4. 閉会
(閉会)